□Garay, L. A. & H. R. Sweet: **Orchids of Southern Ryukyu Islands** 180 pp., 18 figs. 1974. Botanical Museum, Harvard University, Cambridge, Mass., U.S.A. Garay 博士が E. H. Walker 博士から琉球諸島植物誌のラン科の分担を依頼されて以来, Sweet 博士と共にハーバード大学の Ames ラン科植物標本室のよく整理された豊富な資料を使って突込んだ研究を行った結果, 1970 年に原稿ができ上った。この中には多くの新見解がふくまれ大部なものになったため, Walker 博士の琉球植物誌（この原稿もすでに全部でき上っている）とは別に出版されることになったものである。全部で 51 属 95 種 5 変種がふくまれ, 分布表, 属・種への検索表, 異名, 記載, 染色体数, 和名, 琉球産標本, 分布, 図解が記され, 所々に著者の見解が付記されている。終りには薩南諸島に産する 20 種のリストがついている。全体として種の限界は大きくとられており, かなりの種が合一され, またこれまで日本又は東亜特産とされていた種が東南アジアに広く分布するものと同種とされている場合が多い。例えばハチジョウチドリは *Platanthera angustata* (Bl.) Lindl., ニラバランは *Microtis unifolia* (Forst.) Reichb. f., タネガシマムヨウランは *Aphyllorchis montana* Reichb. f., アキザキヤツシロランは *Gastrodia verrucosa* Bl., シマシュスランは *Goodyera viridiflora* (Bl.) Bl., シコウランは *Bulbophyllum Macraei* (Lindl.) Reichb. f., イモネヤガラは *Eulophia Zollingeri* (Reichb. f.) J. J. Smith, クモランは *Taeniophyllum glandulosum* Bl. と同定されているなどその他かなり多くの例が見られる。しかし中には *Liparis nervosa* (Th.) Lindl. の下にコクラン, ユウコクラン, 更にササバランまで合一されているなど同意しかねる個所もある。属は厳格に狭義に規定されている場合もあり, *Neofinetia, Vexillabium, Corymborkis, Cephalantheropsis* などが採用され, ナゴランは単一タイプの新属として *Sedirea japonica* (Linden et Reichb. f.) Garay et Sweet と名付けられた。ともかくラン専攻の著者等が広い見地から東亜では固定し勝ちな考え方を打破して随所に新しい見解をだしており, 今後の東亜のラン科の研究に多くの示唆をあたえている点できわめて重要な文献である。

なお本書は日本のランの研究に貢献された前川文夫, 正宗厳敬, 大井次三郎, 田中隆荘, 津山尚の 5 氏に捧げられた。ただ誠に残念なことは本研究の内容が Walker 博士の好意で琉球の天野鉄夫氏に知らされた所これを初島博士が自著琉球植物誌 (1971) に著者等の全く知らない間に登載したことで, このことが本書の序文に明記されており, 米国では広く話題になっている。ある学者の新知見をその同意を得ずに他の学者が先に発表することは明らかに学界の徳義に反することである。今広く国際的な協力が進められつつある時にどんな事情があったにしてもこのような事が起ったことは誠に遺憾で日本の学界の恥である。真の協力は相互の十分な信頼があって初めて行いうるもので今後このようなことが決して起らないことを強く要望する。　　（原　寛）